

「誰そ彼」時から「彼は誰」時へ 『33年後のなんとなく、クリスタル』を執筆して

平成27.4.16 如水会館 松風の間



作家 田中 康夫 (56歳)

「まる、信州ルネッサンス革命」を書いていただいた。自然環境、インフラという社会基盤、教育・医療・金融といった制度資本は、特定の人の独占物でなく、誰もが共有し得る社会的共通資本。教皇フランシスコが一昨年（2014年）に発布した使徒的勸告『福音の喜び』エヴァンジェリイ・ガウディウム』は日本ではほとんど報じられずじまいだが、極めて示唆に富む。私たちは高度消費社会からも金融資本主義からも逃れられない歯車の一つであったとしても、不条理だらけの社会の中でいかに人間としての相貌と体温を持つべきかを述べている。

三、形式知を超えて暗黙知との融合へ

ひとり暮らしのおばあちゃんに「この魚の切り身は小ぶりだから三〇円まけとくよ」と言うのが市場（いちば）。市場（しじょう）はコンピュータに映し出された数字が全てと考える。家族・集落・地域という人間関係や文化・伝統といった「市場では数値に換算出来ない物」価値ゼロ」と捉える金融資本主義は、事業展開する国家で税金を支払わぬ多国籍改め無国籍なモンスター企業が、国民国家≡ネイション・ステートよりも上位に立って、消費者≡国民を差配する惨状を生み出した。従来の知識や経験に基づく演繹法だけでは袋小路に入ってしまう。あるべき社会に向かってブレークスルーを行う帰納法こそが人間の叡智なのではないか。即ち、形式知を暗黙知と融合さ

一、超少子・超高齢社会が進む中で

『なんとなく、クリスタル』の膨大な注の最後に、当時の厚生省が発表した合計特殊出生率と高齢化率の将来予測数値を記した。二〇代半ばの私は、量の拡大から質の充実に認識を改めねば日本は立ち行かなくなると感じた。だが、その衝撃的だった予測すら、随分と楽観的な数値だった。

昨年末に上梓の『33年後のなんとなく、クリスタル』に載せたデータでは、国連が定義する六五歳以上人口が七％の「高齢化社会」になったのは大阪万博の一九七〇年。「超高齢社会」の二一％を超えて、現在は二五％だ。一方、合計特殊出生率は一・四三で、このまま推移すると百年後には四二

〇〇万人台となる。ところが昨年六月に「トレンドを変えていくことで五〇年後にも一億人程度の人口が保てる」と非現実的な閣議決定が行われた。その根拠は、毎年二〇万人の移民を受け入れるとする内閣府が経済財政諮問会議に提出した資料だ。声高に「国柄」を語る風潮の中で、それと真逆な「大本営発表」が机上の空論として一人歩きし、それがメディアでも報じられず、国民的議論にもならない。

考えてみれば、日露戦争前後の人口は四七〇〇万人。スローフードを始めとして、身の丈に合った日々の生活を楽しんでいるように見えるフランスやイタリアは、現在の日本の半分程度の人口。「移民の是非」云々以前の問題として、経済成長の大前提≡人口維持という硬直した発想こそ、破綻した社会主義の計画経済と同じ、想像力の欠如ではないか。

二、公益資本主義としての富国裕民

米国型の株主資本主義でも中国型の国家資本主義でもない、目指すべき富国裕民の道はどこにあるのか。利益を求める欲望経済を利用しながらも、社会にとって有用な企業を全世界に生み出し、コミュニテイの再生をもたらす経済システムを立ち上げようというムーブメントが公益資本主義だ。

私は（長野県）知事時代、以前から「社会的共通資本」を提唱されていた宇沢弘文さんに「未来への提言」コモンズから始

めることが、「イデオロギー」という不毛な対立を超えた私たちの目指すべき社会だ。エドモンド・バークはフランス革命を批判したから真の保守だと勘違いする人が多いが、実は彼は、人々の革命への要求を先取りするような、その結果、人々が革命など必要としなくなるような賢明な政治や経済の指導者こそ真のリーダーだ、と述べている。とするなら私たちは「切磋琢磨の正しいハイエク」「経世済民の新しいケインズ」の融合を編み出す必要があるのではないか。

四、帰納法的発想への転換と量の拡大から質の充実へ

「決断」とは、中国最古の夏王朝の始祖・禹王が黄河の堤防を敢えて「断つことを決し」て大被害を抑えた史実が語源だ。洪水時に河道内で制御しきれぬ場合には堤防を切断し、人的被害が少ない田畑に水を逃す選択を取った。的確な認識、迅速な決断と行動、明確な責任の重要性を物語る。「3・11」以降の日本は「フクイチ」原発問題に留まらず「法治国家」から「放置国家」そして「呆痴国家」となりかけている。私は「造る」から「治す」「護る」「創る」への帰納法的発想と、脱偏差値教育の自分で考え・語り・動く「智性」「勤性」「温性」が必要と述べてきた。

フランスには三万六〇〇〇ものコミューンがあるが、日本の基礎自治体の数は「平成の大合併」で一七〇〇余と半減した。

